

## 予 算 要 求 資 料

令和 4 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業改良普及費

### 事業名 新品種・新技術普及推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業経営課 普及企画係 電話番号：058-272-1111 (内 2844)

E-mail： c11419@pref.lg.jp

1 事業費 1,062千円 (前年度予算額：4,000千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,000	4,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,062	1,062	0	0	0	0	0	0	0
決定額	1,062	1,062	0	0	0	0	0	0	0

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

新品種・新技術の確立支援は、生産者及び実需者をはじめとする関係者が連携して新品種・新技術の評価を行うこと等により、「強み」のある産地形成に資する品種及び技術の導入の促進に取り組むもの。

本県では、実需者ニーズを踏まえた品質やブランド力など「強み」のある農産物づくりを推進するため、実需者を始めとした関係機関と連携し、品種・技術等の特性・有用性の分析評価等に取り組む。

### (2) 事業内容

飼料用稲の新品種「つきすずか」及び「つきことか」の導入と品種の組み合わせによる生産拡大の実証普及

柿新品種「ねおスイート」の高糖度果実生産に向けた栽培特性の把握と技術確立

### (3) 県負担・補助率の考え方

国庫補助事業を活用する。

「持続的生産強化対策事業のうち生産体制・技術確立支援

(新品種・新技術の確立支援)」 国庫補助金(10/10) 定額

- (4) 類似事業の有無  
無

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	0	
旅費	110	現地指導、現地検討会、実需連携等
需用費	403	事務用品、調査用消耗品等
役務費	219	品質分析費用および分析サンプルの送料等
使用料	0	
備品購入費	330	調査用機器
負担金	0	
合計	1,062	

#### 決定額の考え方

### 4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業農村基本計画

(2) 国・他県の状況

複数の都道府県で実施される見込み

(3) 後年度の財政負担

国庫補助事業として実施

(4) 事業主体及びその妥当性

農業改良助長法に基づき、県が新品種・新技術の確立支援を実施

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 令和4年度までに飼料用稲新品種「つきすずか」及び「つきことか」の、令和5年度までに柿新品種「ねおスイート」の実用化を図り産地を形成する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	達成率
	(R2)	実績	目標	目標	(R5)	
新品種・新技術の実用化および産地の形成	1	1	0	1	2	0% (R3時点)

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新品種の実証ほを設置し品種特性や現地適応性を確認</li> <li>・高収量確保に向けた栽培方法の実証および品質分析の実施</li> <li>・生産者及び実需者による生産利用に向けた意見交換</li> </ul> <p>これらの取組により新品種の利用による地域に適した栽培体系確立が進んだ。</p>
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断）  <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	強みのある産地を形成するうえで、新品種や新技術は他産地と差別化を図ることができるため必要性が高い。
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）  <small>3：期待以上の成果あり                  2：期待どおりの成果あり                  1：期待どおりの成果が得られていない                  0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	実証ほを設置し品種特性を把握すると共に、必要な品質分析を行い、実需者との連携を行う有効な計画である。
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）  <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	農業革新支援センターが中心に、現地や試験場等関係機関と連携して事業推進しており、効率化が図られている。

### (今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>
-----------------------------

### (次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか                  産地や経営体の課題解決や、実需者ニーズを踏まえた品質やブランド力など強みのある農畜産物づくりのため、新品種・新技術の実証は今後も必要である。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	